

令和6年度 牧之原市議会

議会運営委員会視察研修報告書

視察日 令和7年1月20日（月）～1月21日（火）

視察先 ○岐阜県高山市議会

- ・ 高校生との意見交換会について
- ・ 予算決算特別委員会について
- ・ 市民意見交換会について

○岐阜県可児市議会

- ・ キャリア教育支援の取組について（高校生議会等）
- ・ 市民意見交換会（議会報告会）について

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 加 藤 彰

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	高山市議会 ・高校生との意見交換会について ・予算決算特別委員会について ・市民意見交換会について 可児市議会 ・キャリア教育支援の取組について（高校生議会等） ・市民意見交換会（議会報告会）について
〈高山市〉 1 市の概要 高山市は周辺の2町7村と市町村合併し、面積2177平方キロの日本一広大な市となる。人口82,550人（令和6年12月1日現在）、世帯数36,486世帯（令和6年12月1日現在）、令和5年度決算（一般会計）歳入：560億5,816万円、歳出522億9,652万円。国際会議観光都市に指定されている。 2 市議会の基本情報 定数24名、常任委員会数 3委員会（総務環境・福祉文教・産業建設）、その他（議会運営委員会・広報公聴委員会・予算決算特別委員会・自治基本条例等及び総合計画に関する特別委員会・産業廃棄物最終処分場計画調査特別委員会）、会派数6・無会派数1、議会費令和6年度予算 歳出：3億1千915千円（予算全体の0.5%） 3 研修内容 ○<u>高校生との意見交換会</u> 高山市議会基本条例に規定する「市民の多様な意見を把握し市政への政策提言に反映させる」ため、また将来の高山市を担う高校生にまちづくりを身近に感じてもらえるよう、平成28年2月から市内県立高校4校・私立高校1校で実施。実施方法については、議場において高校生が取り組んでいる研究成果を発表し、高校生と議員による意見交換会を行っていた。しかしながら高校側の負担等の課題が挙がっ	

たため、令和4年度より各学校の成果発表会や文化祭に出向いて発表を聞き、意見交換などを行うスタイルで実施している。

○予算決算特別委員会

高山市議会基本条例（平成23年3月議決・同年5月1日施行）に基づく主な取組の1つとして、委員会活動を中心とした決算審査と予算審査を連動させた政策形成サイクルが導入されている。設置形態は、定例会において全員をもって構成。事前通告制は行っていない。人数・回数・時間の制限は設けず、一問一答方式を採用している。

○市民（地域別・分野別）意見交換会

地域別意見交換会は、市内21地域（小学校区単位）に年1回、地域担当班8班（3人編成）で、地域課題や市政・議会に対する意見を伺っている。課題は、参加者が固定、女性や若者の参加が非常に少ない、いただいた意見への対応。対策は、地域で開催されるイベントなど人が集まるところに出向く、地域の団体と相談して開催、話しやすい雰囲気づくり、地域からの意見等に対するフィードバックを必ず行うとしている。

分野別意見交換会は、教育、文化、福祉、産業等様々な課題について、いろいろな団体等の方々との意見交換会を常任委員会が実施し、市民意見の把握、情報の共有化とともに、市政への政策提言に反映させることや、提言後の検証。確認などのために実施している。

4 所感等

高校生との意見交換会は、現在、アウトリーチ型を主に採用しているということでありました。平成29年2月12日開催した「高校生との意見交換」の案内チラシを見ますと、高校生の意見発表の場を議場としています。議場を使って意見発表することの意味の1つに議会を身近に感じてもらえるなどのメリットが考えられます。今回の視察先の可児市議会や、別に調べた中では、例えば、流山市議会でも行われています。参考にさせていただきたいと思います。

議会基本条例に基づく主な取り組みとして、広報広聴活動が位置付けられ、その活動として「地域別」と「分野別」の市民意見交換会が行われている。この意見交換会を通じて市民の多様な意見を把握し情報の共有化を進めるとともに、市政への政策提言に反映させることを目的に実施されている。これは、委員会を中心とした政策形成サイクルの仕組みの中で進められている。本市議会においても民意を市政に反映させる仕組みづくりを進めていくことの必要性を改めて感じました。

〈可児市〉

1 市の概要

昭和57年4月1日 市制施行「可児市」（人口61,157人）となる。人口 99,826人（令和6年4月1日現在）内外国人 8,839人（8.9%）、世帯数44,286世帯、令和4年度決算カード（一般会計）歳入390億7355万円、歳出362億3349万円

2 市議会の基本情報

議員数 条例定数：22 人、現員数：22 人（男性 19 人、女性 3 人）、常任委員会数：4 委員会（予算決算、総務企画、建設市民、教育福祉）、議会運営委員会委員数 10 人、議会費（款 1）（令和 6 年度当初予算）255,653 千円

3 研修内容

○キャリア教育支援の取組について（高校生議会等）

地域課題懇談会として、地元医師会 H26.7 月（職員 11 名、議員 19 名、医師 9 名、高校生 23 名）、可児金融協会 H27.6 月（議員 17 名、金融協会 13 名、高校生 66 名）、可児商工会議所 H28.7 月（議員 20 名、商工会議所 21 名、高校生 58 名）との意見交換会を開催。

・〈H26.2〉議会主催のキャリア教育支援の取り組みを高校生議会として実施。「若い世代の意見を聞く機会をどう設けるのか」をテーマに意見交換。〈H27.2〉子育て支援をテーマに意見交換。〈H28.2〉キャリア教育活動計画について話し合い、意見書を採択。〈H29.2〉実際に起こっている問題をより身近に捉え意見交換を実施し議場において発表。なお、高校生議会は、当初は、岐阜県立可児高校が実施する「地域課題解決型キャリア教育（エンリッチプロジェクト）を支援する事業として始まった。平成 27 年 6 月より可児工業高校、東濃実業高校を加えた 3 校を対象とし、また他の高等学校等へも取り組み拡大を進めている。

○市民意見交換会（議会報告会）について

議会基本条例に基づく意見交換会のほか、ママさん議会、子育て世代との意見交換会を開催している。

〈H28.7〉ママさん議会ワークショップは、8 月 23 日に開催予定のママさん議会の企画会議として開催。このワークショップでは、高校生がファシリテーターとなり子育て世代の女性とともに可児市の子育て環境や駅前に建設予定の拠点施設に関する意見交換を実施。〈H28.8〉子育て拠点施設の運営に関する意見交換を行い結果について議場で発表。また、子育て世代の女性の声を聴く機会を設けることについての意見書を採択。参加者は、市長、職員 2 名、議員 18 名、子育て世代の女性 27 名。

〈H31.1〉子育て世代との意見交換会では、会場は、駅前の子育て拠点施設で開催し、子育て世代の女性 25 名が参加。意見交換のテーマは、H30.5 にオープンした子育て健康プラザ mano を実際に利用して良い点、悪い点を出し合い、どうしたらもっと利用してみたいと思うかを WS 形式で話し合った。

こども議会は平成 16 年より毎年実施している。〈R6.7.9〉帝京大学かに小学校 6 年生 24 名。内容は、1 つは「議会ってどんなところ？」と、もう 1 つは「議会体験をしてみよう！」。財政難の中、どの事業（こども医療費助成の廃止、お年寄り向け無料バスの廃止、市立図書館の廃止、市民温泉プールの廃止）を廃止するか意見を話し合い、最後に採決を行った。

R4.8.20、西可児中学校の 3 年生が主権者教育の一環として、中学生議会を可児青年会議所主催で可児市と可児市議会協力のもと初めて開催。1 班、2 班に分かれて可児市が抱える地域課題や政策について考え、議場において提案。参加者は市長、

教育長、議員 13 名、中学生 9 名、職員。

議会報告会は、春（5 月頃）と秋（11 月頃）、開催場所は、各地区センター単位としている。運営方法は、副議長、常任委員会、議会運営委員会の委員長、議会広報特別委員会正副委員長をメンバーとした議会報告会実施会議において運営。開催状況は、令和元年 5 月・4 会場・75 名の参加。平成 31 年度予算審査の報告と意見交換を行っている。テーマは、「災害への備え」。報告には、議会だよりを活用し、報告と意見交換はともにグループ形式を採用し、最後に会場全体で意見交換結果を共有している。

4 所感等

議会報告会は、平成 25 年度から行われている。令和 6 年は、2 月開催、7 月開催、10 月、11 月に開催され、7 月開催と 10 月、11 月開催では、各常任委員会で調査研究している課題に関する団体や市民との意見交換を行い、2 月開催では、1 部では予算審査に向けての説明、第 2 部では、1 子育て支援の充実（教育福祉委員会）、2 公共交通を考える（建設市民委員会）、3 鳥獣被害（イノシシ等）の現状と対策は（総務企画員会）の 3 つのテーマに分かれて意見交換が行われています。

本市議会では、回数は、年 1 回である点、その 1 回は、ここ数年は、秋に行っている。そのため、決算報告としているが、新年度予算説明の意味をどう考えるかが重要ではないかと感じています。可児市議会の意見反映・反映サイクルの資料によれば、市民意見聴取の機会として議会報告会（随時開催の地域課題懇談会と各種団体との懇談会）が行われています。これは、市民意見の集約に対して、意見対応・結果報告を連動させていると捉えることができます。本市議会においても民意の反映についてどのような仕組みをつくっていくのかにおいて参考とさせていただきたいと思います。

そのほか、委員会代表質問や予算・決算審査における質疑通告制、また、6 月定例会をバラ議会とすることや議場コンサートなど大変参考となりました。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 濱 崎 一 輝

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月 20 日(月)～1月 21 日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	岐阜県高山市議会 ・高校生との意見交換会について ・予算決算特別委員会について ・市民意見交換会について 岐阜県可児市議会 ・キャリア教育支援の取組みについて (高校生議会、ママさん議会、子育て世代等) ・市民意見交換会(議会報告会)について
今回、議会運営委員会において上記研修目的に沿った視察研修を行った。 ➤ 岐阜県高山市議会 ・高校生との意見交換会について ・予算決算特別委員会について ・市民意見交換会について (内容・特徴・参考にしたいところ) ◇ 高校生との意見交換会 ・ 「もっと多様な市民意見を、次代を担う若者の声をしっかり聴こう」という思いから、平成 28 年から市内 5 つの高校と「高校生との意見交換会」がスタート。高校生の地域への率直な思いと、地域への問題意識を意見発表や意見交換を通して聞くことで、それらを政策課題として抽出し、政策に反映させたいということがねらいである。 ・ 長年継続していく中で、授業カリキュラムへの影響や学校側の負担(得意・不得意)などいろいろな課題が見えてきて、実施方法の見直しが行われた。当初は、高校生が議会に出向いて行っていた意見交換会を、令和 4 年度より各高校へ出向いていくアウトリーチ型に変更している。 ・ 高校生からは、具体的な地域課題や自分自身の将来への気づき、地域の魅力などいろいろな感想が多数出てきている。こうした文化が定着していくと、若者がより行政や政治に興味を持ち、地域への愛着が深まるのではないかと感じた。	

◇ 市民意見交換会

- 市民意見交換会は、住民参加等の議会機能の強化にかかる取組みとして、「地域別市民意見交換会」「分野別市民意見交換会」「高校生との意見交換会」「Web 版市民意見交換会」に分けて行われている。
- 地域別市民意見交換会では、テーマを決めずに行っているため、参加者からの意見(地域の要望等)を聴くことが主になり、その後の対応(フィードバック)が出来ていないようであった。やはり、各地域の要望は行政サイドでないとなかなか回答しづらく、それが市民への不満にも繋がっているようで課題になっていた。
- 委員会活動を中心とした政策形成サイクルが確立されており、全てにおいて委員会が主体となり、所管事務調査(政策課題)に繋がる活動を多岐に渡って行っていた。特に印象的だったのが市民意見交換会は、政策課題をテーマに行われており、その後に意見交換会での意見を踏まえた上で、各委員会で政策討論を行っている点はとても参考になった。
- 「Web 版市民意見交換会」は、当初「ちいきミライ箱」として、市役所の市民コーナー、各支所、各まちづくり協議会事務局などに設置されていたが、ほとんど活用されていなかった。そのため、SNS を活用したオンライン上から気軽に意見が書き込めるものに変更し、現在は市民からの声も増えてきているようで、おもしろい取り組みである。

◇ 予算決算特別委員会

- 決算審査と予算審査を連動させ、決算審査で出た質疑内容が予算に反映しているかをしっかりとチェックしている。
- 委員会活動を中心とした政策形成サイクルをとっているため、各常任委員会において事前に論点整理をした上で、予算決算特別委員会を開き、その後に本会議に臨んでいるという点が、とても印象的であった。
- この特別委員会は全議員で構成されており、委員会に縛られない議論が行われている。事前通告は行わず、質問者・質問回数・時間制限は設けず、一問一答方式で行われている。しかし、会議の進行や質を考えると、質問回数制限設けておく方がより建設的な意見や質疑ができるのではないかと感じた。
- 牧之原市議会では、2つの常任委員会による連合審査会形式で行われているが、この形式でも、各常任委員会において事前に論点整理をした上で、連合審査会に臨めば、より建設的な意見や質疑が出てくるのではないかと感じた。

➤ 岐阜県可児市議会

- キャリア教育支援の取組みについて
(高校生議会、ママさん議会、子育て世代等)
- 市民意見交換会(議会報告会)について

(内容・特徴・参考にしたいところ)

☆ キャリア教育支援の取組

- ママさん議会、子育て世代との意見交換会、高校生議会、中学生議会、子ども議会など、特に政治や行政にあまり関心や興味を示さない人達を対象にして、自分の住むまちの魅力や課題を一緒に考えていく取り組みは、とても素晴らしく人づくり、まちづくりの観点からも非常に参考になるものであった。
- 幅広く多くの市民の意見を政策に反映していく仕組みづくりがしっかりしており、牧之原市議会でも取り入れていく必要性を感じた。

☆ 市民意見交換会(議会報告会)

- 市民意見交換会(議会報告会)は、各常任委員会が主体となり所管事務調査のテーマに沿った内容で行われていた。地域の課題や要望をテーマにすると、行政でないとすぐに答えられないものが多く、それだと参加している市民の不満が大きくなる。これは、高山市議会でも同じようなことを言っていた。その点、所管事務調査のテーマであれば、市長(行政)への提言という形で、市民会議や意見交換会に参加してくれた市民に成果物として示すことができるので、改めてよい取り組みであると感じた。

(その他)

☆ 会派代表質問ではなく委員会代表質問

- 委員会代表質問は、とてもよい取り組みである。会派は、同じような意見や考えを持った人同士の集まりなので、ある意味偏った意見になりがちであり、談合だという講師の考え方に賛同した。その点、意見や考え方が違う議員が所属する委員会は、「市民福祉の実現」の観点からも多種多様な意見が議論されるので非常によい取り組みであると感じた。
- 会派ではなく、委員会が主体となり議会運営を行う点では、高山市議会同様評価できる。また、当局も委員会だからこそ、それなりの回答を用意してくるという点も賛同できる。牧之原市議会でも、委員会活動の更なる充実が必要だと感じた。

☆ 予算決算審査サイクル

- 予算決算審査を連動させて、決算審査時に議会から市長対して提言を出している。その提言に基づき、予算審査では提言内容が予算に反映されているのかもチェックしており、より実効性の高いものになっているのが感心した。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 原口 康之

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	高山市議会 ◦高校生との意見交換について ◦予算特別委員会について ◦市民意見交換会について 可児市議会 ◦キャリア教育支援の取り組みについて（高校生議会等） ◦市民意見交換会（議会報告会）について
高山市議会 牧之原市議会同様に（常任）委員会を中心に活動し、政策提言のための政策形成サイクルが確立されている。2町7村の合併により日本一広大な市面積を有している特徴がある。議員の市民からの広聴という意味と思われるが、地域別市民意見交換会という名称で、市内21地域（小学校区）3人編成（3つの常任委員会）で8班に分けて21地域の意見の収集をしている。広報公聴委員会（24人全議員）地域別市民意見交換会と高校生との意見交換会を行っていた。高校生については、各高校の市内の発表会に出向いて意見交換会を実施していた。分野別意見交換会（所管事務調査）では3つの常任委員会が所管別に意見交換（公聴会）を行い、それぞれで政策提言に取り組んでいた。また、これも広聴、広く市民に意見を聴く意味があると思われるが、ちいきミライ箱の取り組みからのWeb版市民意見交換会も検討の余地を考える。予算特別委員会については、形式は、牧之原市の連合審査会と同様だが、高山市は、予算決算特別委員会全議員で行い、条例のなかでは、議員相互の議論を深め合意形成を図るとうたわれているため議員間の情報交換はできていると思われる。また、3つの常任委員会を2年で改選を行うため議員の専門性も高まると思われる。 牧之原市議会に取り入れるとした場合は、①地域別意見交換会（少人数制での議会報告会）（広聴）、高校生との意見交換（広聴）、分野別意見交換会（公聴）を開くために議員の専門性を高める必要がある。	

- ②高校生については、継続して行うための方法の検討が必要。
- ③ちいきミライ箱については、牧之原市本会議場横の意見箱の数を増やし設置する。意見箱の名称などを検討して存在を知ってもらう事で、同様の効果があるのではと考える。
- ④市民に知って貰ったその後、Web 版などを追加していく。
- ⑤予算決算特別委員会では、現状でも議員相互の議論を深め合意形成を図る機会を設けるため設置を検討してもよいと思う。

可児市議会

キャリア教育支援の取り組みについて可児市議会では、可児市議会条例のもと、高校生も市民の1人と考え

- 高校生の意見を把握し、市政に反映
 - 若い世代の都市部流失が地方衰退につながる
 - 地域の魅力を知る場の提供
- 3件を洗い出し可児市の魅力を知る場をどのような場とするかで
- 地域への愛着や当事者意識の醸成
 - 広い視野や新しい経験の獲得
 - 社会や学問のつながりの実感

などとして、ふるさと発展に寄与する人材の育成のために地域課題解決型キャリア教育をスタートした。キャリア教育推進のためには地域で活動する大人との関る機会とその運営者が必要でキャリア教育研修会を行った。

高校生議会については、議会主催のキャリア教育支援の取り組みを高校生議会として実施して、若い世代の意見を聴く機会をどう設けるか意見交換した。また、子育てに関わる事業者・団体の協力を得て子育て支援をテーマに意見交換し、キャリア教育を支援する団体の支援を得てキャリア教育活動計画について話し合い議場で発表した。高校生とのグループでは、IPE手法を活用した意見交換を行った。

（IPEとは多種間連携教育の略称で複数の領域の専門家が連携し、お互いから学びあいお互いの事を学ぶ仕組み）

市民意見交換会（議会報告会）については、市民意見の集約という事で地域課題懇親会・各種団体との懇談会が共に随時開催され、意見交換による情報共有及び情報収集が行われている。議会報告会については、基本条例で毎年開催を規定し、春（5月頃）を予算審査、秋（11月頃）を決算認定年間2回行われている。実施については、報告には、議会だよりを活用、報告及び意見交換共にグループ形式、最後に会場全体で意見交換結果を共有している。広報手段は、議会だより、ケーブルテレビ、FM放送、フェイスブック、地域回覧、チラシ配布等で後日説明資料と動画を行っている。

牧之原市議会においては、

可児市議会では、キャリア教育支援をするため条例の整備、高校生と専門性高い、地域の大人との研修会、意見交換会（地域課題懇親会・各種団体との懇親

会)を続け、IPE手法で一堂に会し相互の理解を深め、若い世代(高校生など)とマッチングの場を提供し進化させている。しかも、1年間の議長の任期で10年近く議会として継続している。議員相互の理解、専門性の高い議員の資質が求められ、当局との信頼関係が必要だ。

- ① 継続しての高校生議会と考える。その次、子ども議会、中学生議会とステップアップできる。
- ② 市民の関心も高く、市内への波及効果も期待でき住民自治の考えも進んでいると考える。
- ③ 市民と行政と議会が一体となり課題を共有し、解決するには、限られた時間の中でどうするか。正しいこと継続していく事が大切。
- ④ 現在の状況で、議員の専門性を高められるか。検証や検討が必要。
- ⑤ 議会報告会については、同様に行っているが、報告は、予算・決算行い、1か所会場で常任委員会(グループ形成)ごとに報告・意見交換を行う。出席者にどこに行くかは選択する等は、検討の実施できると思う。
- ⑥ 広報方法は、ケーブルテレビは予算的に無理だが、FM放送などは、海水浴場や沿岸部活性化・空港などの観光を含め検討の余地はあると思う。
- ⑦ オンラインの議会報告会・意見交換会もメリット・デメリットがあるが、検証・検討していくべきと考える。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 松下 定弘

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	・ 高校生および市民の意見交換会について ・ 予算決算特別委員会について ・ キャリア教育支援の取り組みについて ・ 市民意見交換会（議会報告会）について
・ 岐阜県高山市議会 「高校生および市民の意見交換会について」 高山市議会では、住民参加等の議会機能の強化に係る取り組みは、以下になります。 ① 地域別意見交換会 高山市では、地域別意見交換会として、地域担当班8班（3人議員編成）で各地に出向き意見交換会を行い情報の共有をして、政策提言に反映しています。なるべく話しやすい場を心掛けている点は服装や車座といった工夫をされて、とても参考になりました。 ② 分野別意見交換会 各常任委員会の分野別に関連する行政や業種の方たちに意見をもらい政策に反映しています。本市では、各常任委員会が「市民会議」を開き情報の共有をして、政策提言に反映している点は同じですが、高山市議は議員数も24人と多く、年間に開催される回数も充実しています。 ③ 高校生との意見交換会 本市でも高校生との意見交換会を取り組んで間もないですが、高山市議会では、2016年（平成28年）から既に取り組んでいます。市内には県立高校4校と私立高校1校の5校があり、当初は議場にて高校生代表者が議会に対する発表を行いました。毎回の開催では、高校生の負担となり参加率も減少してきたため、高山市議会から学校に出向き、話しやすい環境づくりと進化していました。参考となったのは、高校生が議会の議場に入り議員という疑似体験をさせることは、高校生から「良い経験」として、議会との距離感を無くす意	

味で、良いと思いました。また、今までの高校生からの感想を抜粋すると、

- ・ 普段自分が思っていることを言えて良かった。
- ・ 気づくことが出来ない点や新たなアイデアを知ることが出来た。
- ・ 実際に意見を議会で話すことで、高山市の力になれると思うことが出来た。
- ・ 自分が高山市に帰ってきた時に（牧之原市と同じ大学が無い）魅力が出来てここに住もうと思えて楽しみになった。以上のように建設的なご意見が多く、ありました。（当日の資料より）

④ Web 版市民意見交換会

当初高山市では、市民からのご意見を聞く「ちいきミライ箱」といったご意見を各支所で、設置しています。しかし、使用する住民も少なく、活用されていない課題対策として、昨年10月より「Web 版市民意見交換会」と名前を変えて再スタートしました。意見を頂くだけでなく、議会広報や議会だよりなども活用しています。市民がいつでも手軽にスマホから意見を提出できるように若手議員からの提言で実現しました。

⑤ 議会モニター制度の試行

全国的にコロナ禍の状況が原因で、議会の運用も各地でモニター制度やオンライン議会の取り組みを行っています。

⑥ 地域お仕事発見隊（こども議会）参加など、市民への議会を知ってもらう取り組みを行い充実している。

市民団体や学校の教育関係者からの提言で様々な「お仕事」を小学生や中学生を対象にお仕事の体験をする取り組みで、市議会の「お仕事」を体験できるようここでも議場を貸し切って子供たちに「こども議会」を開催するなど好評を得ています。牧之原市も子供たちにこのような経験をすることは、議会への距離間を無くす工夫として参考にしたいと思いました。

「予算決算特別委員会」について

高山市議会では、全員をもって構成する予算決算特別委員会を設置し、審査を行います。特徴として、①事前通告制は行わない ②質疑について人数・回数・時間の制限は設けていない一問一答方式でおこなう。以上のような制限が無い場合質疑応答で、夜まで時間が掛かることがあります。行政側も質疑に答えるために必死に聞いているので、議員や行政双方とも緊張感がとてもあるとお話されていました。予算決算については、自分も高山市議会のような取組は大変参考になりました。

「総評」

高山市は、人口82,550人（令和6年12月現在）全国市町村で、最も面積が広く伝統的な街並みが多く、海外からの観光客もたくさん訪れています。今回、市民や高校生の意見交換会や、予算決算特別委員会の取組説明をしていただいた高山市副議長の「山腰」さまから説明を頂きました。我が牧之原市より数倍の人口や歳入金額を見ると、くらべものにはなりませんが、課題は何ら変わらないことですが、取り組む議員の覚悟が唯一と感じました。

・岐阜県可児市議会

「キャリア教育支援の取り組みについて」

可児市議会は、議会改革のための市民アンケート（平成23年2月実施）対象者20歳以上の市民2,000人を対象に「議会基本条例調査研究プロジェクトチーム」（有志議員）が主体となって実施。回収数は810件、回収率40.6%回答では「議員の活動内容を知らない64.2%」「市民の声が市議会に反映されていないと感じている6.2%」など厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識されました。そこで、「大人」×「若い世代（高校生）」に焦点を絞り、「可児市の魅力を知る場」をテーマとして、①地域への愛着や当事者意識の醸成 ②広い視野や新しい経験の獲得③社会や学問のつながりの実感などの取り組みで、「**ふるさと発展に寄与する人材育成**」＝「**地域課題解決型キャリア教育**」を実施することになりました。キャリア支援として、研修会の設置。若い世代（高校生）とのグループワーク「IPE手法を活用した意見交換会」を行いました。（※IPE手法とは、多職種連携教育の愛称で、複数の領域の専門職者が連携し、お互いから学びあう仕組み。）あらゆる職種の方と高校生を結び付けて、化学反応を起こす取り組みにとっても興味がありました。

「市民意見交換会（議会報告会）について」

キャリア教育支援の重なる部分がありますが、各地域や職業別で意見交換会を実施して、前途の支援に結び付ける取り組みと政策に提言する取り組みは、本市も同じ内容です。特筆は、「ママさん議会からの施設への提言・要望」を建設中の駅前子育て拠点施設の実践例もありました。

「総評」

可児市は、人口99,826人（令和6年4月現在）自動車のトヨタが有名な愛知県のお膝元であるため、自動車部品メーカーの工場が多く、働く外国人も増えています。また「花のまち」として世界に誇るバラと花々の大庭園があります。議員数は22人可児市も牧之原市よりはるかに財政は良いです。今回の視察研究で特に強い印象は、説明いただいた議員のパワーがとても強く、取り組む内容に強い自信を感じられました。説明いただいた、可児市監査委員「川上」議員をはじめ、他のみなさま、ありがとうございました。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 名波 和昌

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	岐阜県高山市…高校生との意見交換会について …予算決算特別委員会について …市民意見交換会について 岐阜県可児市…キャリア教育支援の取組みについて(高校生議会等) …市民意見交換会(議会報告会)について
1月20日 高山市議会 ① 意見交換会 高山市では、 ・地域別意見交換会 ・分野別意見交換会 ・高校生との意見交換会 ・web版市民意見交換会 ・議会モニター制度の試行 ・地域お仕事発見隊(こども議会)に参加 し、様々な分野の市民との意見公開を実施し、市民の意向を収集し議員活動の参考としている。 ◆地域別意見交換会 市内の21小学校区に年1回出向き、市民の多様な意見の把握、情報共有を進め政策提言等に反映させている。 課題としては10年前に比較し、コロナ渦の影響もあり参加人数が減少している。特に参加者の固定化、女性や若者が少ないことがあげられる。ただし、意見数は大きな減少はない。対策として、市民が集まる場への参加や地域団体との相談等を進めており、牧之原市議会でも参考にできると考える。 また、意見に対するフィードバックをしっかりと対応することに注力され、重要だと考える。	

◆分野別意見交換会

これは、委員会別の意見交換会で、牧之原市でいう、いわゆる「市民会議」である。教育・文化・福祉などさまざまな分野の団体や個人を対象している。

◆高校生との意見交換会

従来の意見交換会の反省を踏まえて、さらに多用な市民意見を共有するため、市内5校の高校と開始した。

内容としては、地域への率直な思いや問題意識の共有し、その中から政策課題として政策に反映することをしている。

ただし、授業への影響や高校側の要望を踏まえて、令和4年度からは「アウトリーチ型」で開催している。

② 予算決算特別委員会について

- ・ 当市とは違い、全議員で構成されている「予算決算特別委員会」を設置している。
- ・ 質疑は事前通告制は取らず、当日直接質問であるが、事前に当局との論点整理を行い、すれ違いがないように進めている。
- ・ 当市との違いは、質問回数、時間の制限はかけていないので、長時間になることもあり。この点は当局の負担を考えると制限をかける必要はあると考える。
- ・ 当市の連合審査会と比較し良いのかどうかの判断は難しいと感じた。

③ その他

- ・ web 意見交換会、議会のライブ配信等の議会 DX 導入は、当市においても早急に検討していく必要性を感じた。
- ・ 小学生から中学生による「おしごと発見隊」「こども議会」についても導入を検討する必要性を強く感じた。

1月21日 可児市議会

① キャリア教育支援の取組みについて(高校生議会等)

- ・ 地域の大人と関わる場所を提供することで、地域への愛着や当事者意識をもってもらい、新しい体験により、広い視野で社会とのつながりを実感してもらうことから、高校生の意見を把握し、市政に反映できる仕組みを作った。
- ・ 地域への愛着や当事者意識の醸成
- ・ 広い視野や新しい経験の獲得
- ・ 社会や学問のつながりの実感 などにより、ふるさとの発展に寄与する人材育成を進めている。これがキャリア教育支援につながっている。
- ・ ここでは、可児高等学校が求める大人と関わる機会と議会が求める若い世代の意見を聴取する機会を設ける方向性が合致し、「IPE手法を活用した意見

交換」を開催している。

（I P Eとは「多職種間連携教育(Inter Professional Education)」の略称で、複数の領域の専門職者が連携し、お互いから学びあい、お互いのことを学ぶ仕組み。）

・また、「高校生議会」としてのワークショップを随時開催しており、若者世代の意見集約に役立て、政策提言にもつなげている。

・参加した高校生からは、「活動する中で苦労はあったが、議員や市長からの意見・質問などから新しい視点に気づくことができ、今後の活動の糧になった。」といった効果が確認できている。

・さらに高校生の投票率を上げるために、模擬選挙も実施している。この点も参考になる。

・また、小学生を対象とした「こども議会」を本会議場で開催し議会への理解を深めているし、令和4年には「中学生議会」も開催し大きな効果を得ている。これも導入を進めたい。

・地域課題懇談会として、医師会、金融業界、商工会、子育て事業者などとの懇談会も開催している。

② 市民意見交換会(議会報告会)について

・議会報告会は5月・11月の二回開催している。

・周知には「議員と話そう」という、親しみやすいロゴを使用しており、参考になる

・コロナ渦の影響もあるが「完全オンラインの議会報告会」も実施している。結果として、Zoomは参加しやすかった。

若い人も気軽に参加し、意見を出してもらえるようになるといい。

資料を目の前で確認でき、文字も大きくできるので見やすい。

オンライン参加者からも「完全オンラインでなく、対面も可ならば、やはり直接話をするほうが良い」

といった意見が出され、市民にはおおむね受け入れられている。

・内容は当市と同様に、一部議会活動報告、二部意見交換会としている。

・商工会等の各種団体との懇談会も随時実施しており、民間意見の取入れを進めている。

・「ママさん議会」ワークショップの開催により子育て支援に関する意見集約も進めておりこちらも参考になる。

どちらの市議会においても、議会報告会への参加数や内容については紆余曲折に様々なことを試行している。

この中でも、若年層（小学生・中学生・高校生）への議会の理解浸透努力、子育て世代との懇談会については、当市議会でも早急に進める必要性を痛感した。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 谷口 恵世

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	高校生との意見交換会について 予算決算特別委員会について 市民意見交換会について キャリア教育支援の仕組みについて
* 高山市議会 * 住民参加等の議会機能の強化にかかる取組み ・ 地域別意見交換会 市内 21 地域（小学校区単位）に年一回、地域担当班 8 班（3 人編成）で伺い、地域の課題・市政や議会に対する意見交換する。 課題：参加者の固定化、女性や若者の参加が少ない等 対策：イベント等の開催に合わせた日程とする、手上げ方式で地域と相談して開催する、地域からの意見等に対するフィードバックを必ず行う等 ★地域別市民意見交換会の市民意見処理フローと地域担当班の役割が分かりやすいチャート式の図で示されている ・ 分野別市民意見交換会 各常任委員会主導による様々な団体等との意見交換会 →牧之原市議会の各常任委員会が開催している市民会議 ・ 高校生との意見交換会 2016 年より市内の県立高校 4 校・私立高校 1 校と開催 ・ 高校生が取り組む研究成果を議場で発表し、議員が共有 ・ 高校生との意見交換会 高校側の負担感が課題となるため、2022 年度よりアウトリーチ型での開催とした。 ・ 「ちいきミライ箱」設置→効果が薄い ➡「Web 版市民意見交換会」（令和 6 年 10 月から） - QR コードからオンライン上で意見を提出できる	

- ・NPO法人主催の「地域お仕事発見隊」（令和5年～）

雇用産業創出課と連携し、市内企業40社協力（市の助成有り）

議会に参加登録「議員になろう！もし自分が議員になったら」に9名参加

*予算決算特別委員会

- ・定例会において、全員をもって構成する予算決算特別委員会を設置し審査
事前通告は行わず、人数・質疑の回数・時間の制限設けず、一問一答方式
審査日数：予算・決算審査のある3月・9月は3日間、6月・12月は1日間

*可児市議会

*キャリア教育支援の取り組み

- ・高校×議会
議会がキャリア教育についての研修会を受ける
高校生とのグループワーク
 - ・IPE手法を活用し意見交換会
 - ・地域の各団体等との地域課題懇談会高校生議会（グループディスカッション、成果発表、活動報告やマニフェスト提案、模擬選挙の立候補者の選挙公約をもとに市への提案等）
- ・子ども議会（小学校6年生）（平成16年より毎年実施）
議員が議会の仕組みを説明後、議長が市長役、議員が執行部となり、子ども議員のするどい質問に答え、最後に採決を行う
- ・中学生議会（R4.8）

*市民意見交換会（議会報告会）

- ・完全オンラインの議会報告会（R4.5）
Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、興味のあるテーマを市民の方が選んで参加する形で開催。一部の議員も自宅からオンライン参加。
- ・「議会報告会（市民と議会の懇談会）」
議員と話そう！今日は皆さんの声を聴かせてください」
↑このようなチラシで参加したくなる工夫をしている
- ・報告ではなく対話の議会報告会を開催
- ・市民から出た意見はすべてHPで回答
- ・議員間で共有し、課題解決に向かう

*その他

- ・監査委員の情報共有機会を設ける（開示できる範囲に限る）
- ・委員会は各議員の専門性を考慮し、選択できるようになっている

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 村田博英

研 修 名	令和6年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和7年1月20日(月)～1月21日(火)
研 修 先	岐阜県高山市議会 岐阜県可児市議会
研修の目的	予算決算の審査について 議会報告会について 市民との意見交換会の在り方について
飛騨高山市 人口8万3千人、平成17年1市9町村の合併により全国一の面積の市となる 議会報告会については、住民参加の取り組み方を模索するも年々参加数の減少状態にある、要因は参加者の偏りとマンネリにある、地域別意見交換会、分野別（建設業など）意見交換会、高校生との意見交換会を行っているとのこと。 このほかウェブ意見交換や、子供議会を行っている、 課題は、前述した住民の減少による参加者の減少、高年齢化による参加者の年代の偏りである。 良い点は、高校生との意見交換会で意見として自分が思っていたことが言えて良かったとの感想が寄せられた、意外と楽しそうで政治に関心が持てそうな気がしたとのこと、とにかくやってよかったとのこと案ずるより産むが易しか。 可児市 人口9万8千人、名古屋市のベッドタウンでもある。 市民会議のオーソリティ可児市議会正副議長職複数回経験者の川上議員による講話ともいえるような議会改革についての説明であった。 議会の見える化、市民目線でやるのには何が必要か、市民との話し合いが原点とのことで、改めて議会報告会を問われていると感じた。	

議会だよりの充実やそれを軸とした分かりやすい公報の改善を常に心がけているとのこと

市民の意見を聞く意見交換会を多く行うこと、が基本である。

予算決算審査においてはまず決算を理解すること、その状況を精査して予算審査に臨むことである、決算状況を知らずして予算の可否や必要性の有無判断はできない。

視察全般の私見

日程全般は雪の地方区域でありまずまずであったと思う。

視察内容は予算決算については妥当であるが本議会議員として更なる勉強が必要と思う

議会報告会について、やはりどの議会も苦勞されている様であるがその中で改革を忘れずチャレンジ、トライを続けなければならないと感じた、高校生だけではなくママさんや議会に来れない団体に出向き声を聴くことが議会への理解を生むことになると感じた。

飛騨高山は山であり雪深く、可児市とは文化が異なる町であるが、高山祭に見る匠の技、工芸は世界に誇るものである、それらを継承している市民の力こそが学ぶべきことであると感じた、祭りは基本であり大事である。

以上